

「今、何の病気が流行しているか！」

(川崎市感染症発生動向調査事業—令和3年第32週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和3年第32週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和3年第32週（令和3年8月9日から令和3年8月15日まで）

第32週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）RSウイルス感染症 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.04人と前週（2.09人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は0.42人と前週（1.21人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.38人と前週（0.62人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

今週のトピックス

“新型コロナウイルス感染症～ワクチン接種後もマスクの着用を～”について取り上げました。

新型コロナウイルスは変異が多く、現在川崎市内では、デルタ株といわれる変異ウイルスが主流となっています。デルタ株は従来のものよりも感染力が強いとされていますが、新型コロナウイルスの有効性は他のワクチンと比べて非常に高く、デルタ株であっても感染するリスクを大きく減らすことができます。市内においても、ワクチン接種が進んでいる高齢者については、6月以降の感染割合が大幅に減少しています。

ワクチン接種完了後に感染する率は低く、万一感染しても無症状や軽症で済むことが多いものの、排出されるウイルス量は接種の有無に関わらず同等との報告もあります。換気の悪い場所や密な場では、必ずマスクを着用しましょう。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

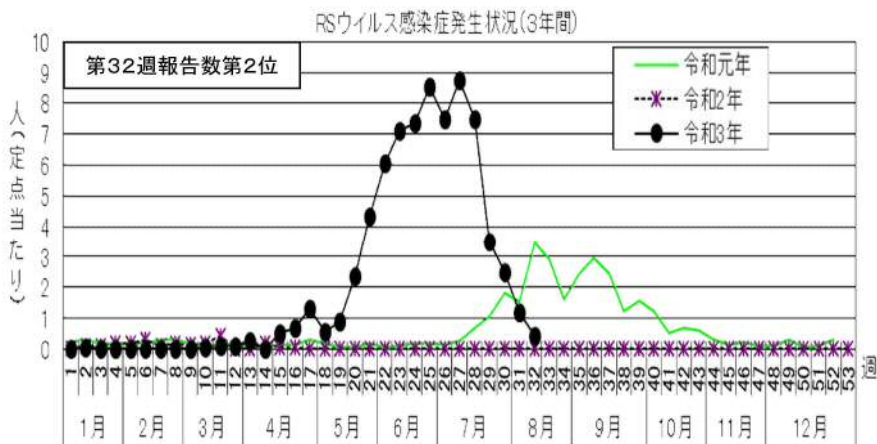
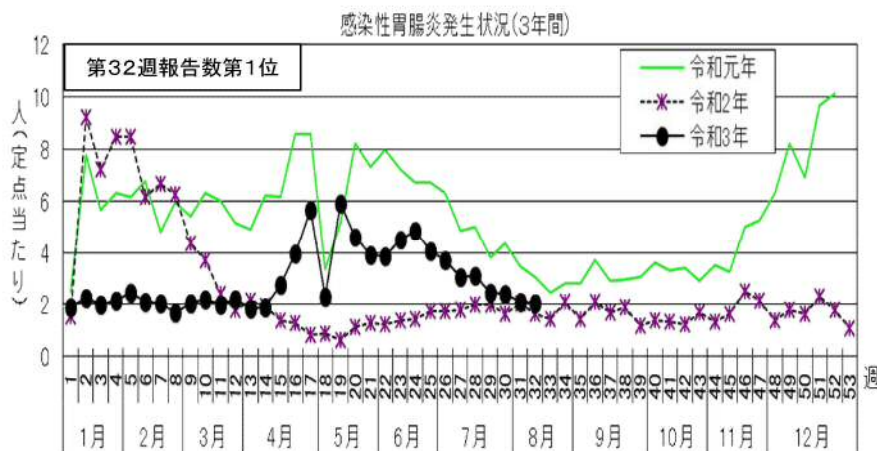
連絡先 川崎市健康福祉局保健所感染症対策課 小泉
電話044（200）2446
川崎市健康安全研究所 三崎
電話044（276）8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年8月9日（月）～令和3年8月15日（日）〔令和3年第32週〕の感染症発生状況

第32週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) RSウイルス感染症 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.04人と前週（2.09人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は0.42人と前週（1.21人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.38人と前週（0.62人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

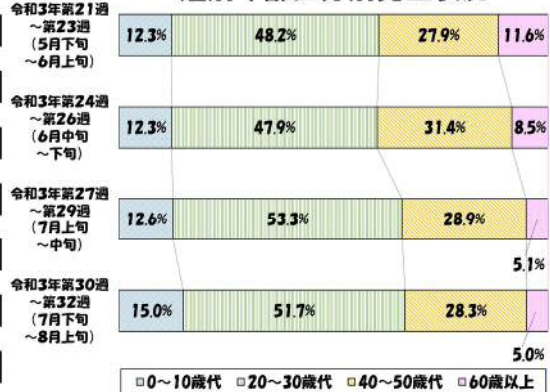


新型コロナウイルス感染症～ワクチン接種後もマスクの着用を～

新型コロナウイルスは変異が多く、現在川崎市内では、デルタ株といわれる変異ウイルスが主流となっています。デルタ株は従来のものよりも感染力が強いとされていますが、新型コロナワクチンの有効性は他のワクチンと比べて非常に高く、デルタ株であっても感染するリスクを大きく減らすことができます。市内においても、ワクチン接種が進んでいる高齢者については、6月以降の感染割合が大幅に減少しています。

ワクチン接種完了後に感染する率は低く、万一感染しても無症状や軽症で済むことが多いものの、排出されるウイルス量は接種の有無に関わらず同等との報告もあります。換気の悪い場所や密な場では、必ずマスクを着用しましょう。

川崎市における新型コロナウイルス週別年齢区分別発生状況



令和3年8月16日9時時点の集計データより作成

ワクチン接種者と未接種者の違い

